

受講者 | テキスタイルデザイナーは、柄に片寄る傾向にあるが、品質特性についても考えては。

受講者 | アーティスト、デザイナー、作家が、作家経済学とか、アトリエマネジメント学と言うようなものを学ぶ機会が必要。

受講者(学生) | テキスタイルデザインを学ぶために大学へ入ったが、アートに片寄っていてデザインについて教えてもらえない。先生方もデザインを低くみている。

受講者質問 | コンピューターの活用について。

近沢 | コンピューターに対する取り組みについて、企業サイドから。日本のインテリアテキスタイル関係は流通パイプが非常に長く、クックに必要な物を必要な所へなかなか供給できない。将来的にはインターネットにホームページを開設し、ダイレクトな販売が行われると思う。それならば早い対応ができる。それは目前に迫っているように思う。

商品開発、デザイン企画面においては、社内ネットワークだけでなく、建築現場の仕事などは、ゼネコン、設計事務所とオンラインで結び、共にインテリア施工を考えると言う事がもうすぐ実現するのではないか。

梅田 | ファイリングの活用法はまだ模索中。技術開発用のもの、感性を必要とする創造開発の物のそれぞれの特長を生かして活用は進むだろう。

近沢 | 京都の産業人口のうち、大体25%が繊維に関わる人達と言う。繊維産

業に携わる人の多さでは日本で1~2位を争う繊維の町です。また美術系大学も多い。こう言った意味で今回のパネルディスカッションを京都で開催した事は意味深いものがあります。

受講者(女性)質問 | デザイン室に勤務しているが、企業内において、将来、女性の地位、待遇はどうか。

近沢 | 会社組織の中には色々な部があり、その中のひとつにデザイン部があります。デザイン部は男女同じ給料体系をとっている。昇進の機会も男女同じ。残念な事に、女性の役員、社長がこの産業の中で出てこない。(自動車、家電でも同じ。例外としてほんの一部あるが。)なぜかという、経営に関する社会的情勢の把握、そして一般常識、バランス感覚、数字が読める、文章がきちっと書けると言った普通の人間が出来る事が、物造りに対する意識にウェイトがかかり過ぎて疎かになることがおこりがち。普通の事が一番大事であるのにややもすればそれが欠けてくる。しかし、当社においての女性の昇進については個人の生き方、能力次第でいくらでも可能であります。

繊維の町、京都でT.D.Aがこのような機会に恵まれた事を幸せに思います。

ありがとうございました。

レポート[山本竜一]

交流パーティ・前夜祭

会期 5月31日[金]

会場 リサーチパーク内ブレッドバスケットにて

参加者 約50名

6月1日の総会を盛り上げるための前夜祭として、京都府デザイン室より小畑課長はじめ担当者をお迎えして、デザイン展出品者、パネルディスカッションの近沢コーディネーター、パネラーを囲み、東西T.D.A会員、一般参加者共々、楽しい交流の場をもちました。

